

令和5年7月4日

白石市教育委員会(定例会)議案

白石市教育委員会

令和5年7月4日

白石市教育委員会(定例会)

参 考 資 料

白石市教育委員会

第27号議案

令和6年度使用教科用図書採択希望資料について
(案)

秘密会のため非公開

令和5年7月4日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典

第28号議案

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について(案)

令和5年7月4日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	15,677千円	2. 令和3年度決算額	16,431千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)</p> <p>○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。</p> <p>○トイレの洋式化率の向上を目指す。</p>		
4. 事業の実績	<p>○当初予算(修繕費)にて24件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して121件修繕を行った。また、その他、簡易な修繕は、各学校に配当している予算で対応した。</p> <p>○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、定期的に専門的な安全点検を行う計画を作成し、本年度より一般社団法人宮城県建築士会白石刈田支部の協力による点検や市技術職員による点検を行った。</p> <p>○トイレの洋式化については、小学校3校で5基、中学校1校で2基、合計4校で7基を改修した。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>○必要性・緊急性を勘案しての令和4年度当初予算及び補正予算による修繕については、全て完了することができた。</p> <p>○学校施設等安全点検の計画を作成し、専門的な安全点検を行うとともに、市教委と教職員が合同で安全点検を行い、安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。</p> <p>○トイレの洋式化は、計画どおりに改修し、小中学校の総数321基中193基の洋式化が完了し、洋式化率は60.1%となった(令和3年度57.9%)。</p> <p>【課題】</p> <p>施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	<p>○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。</p> <p>・「学力向上グランドデザイン」に則り、児童・生徒の学力の向上を図る。</p> <p>・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導等に生かす。</p>		
1. 令和4年度予算額	9,524千円	2. 令和3年度決算額	10,258千円
3. 令和4年度の事業内容	市独自の学力調査を実施するほか、令和元年度から3年間にわたり受託した宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を踏まえた本市「学力向上グランドデザイン」の取組を基に、学力向上におけるPDCAサイクルを推進し、学力向上を図っていく。		
4. 事業の実績	【白石市学力調査の実施】 埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査を5月に実施したほか、12月には標準学力調査を小・中学校全学年において実施した。		
	【教員研修会の実施】 5月13日:学力向上に係る管理職研修会 9月9日:学力向上推進委員研修会 10月4日:AIドリル授業活用研修(中学校視察) 11月10日:白石市学力向上研修会①(中堅教員対象) 1月25日・26日:白石市学力向上研修会②(25日:小学校、26日:中学校)		
	【各種検定補助、中学校校内実力テスト実施に対する補助】 ・漢字検定:2回(のべ414人)、数学検定:2回(のべ211人) ・中学校実力テスト(1年:2回、2年:3回、3年:5回)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力と学力の関係について全市教員の理解が図られ、その視点で学力向上を推進していくという意識の高まりは成果と捉えている。特に、学力調査の結果から学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。また、結果分析を基に各校での学習指導の改善及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確実に実施されていた(教師意識、学力向上推進委員会議)。 ・年度当初に学力向上に係る管理職研修の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。 ・過去に受検している児童生徒が再度、受検に申し込むことが認められ、このことは学びへの意欲、挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながるものであった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度(中学校は令和3年度)より完全実施となった学習指導要領、令和の日本型学校教育を踏まえた授業(個別最適な学び、協働的な学び、ICTの活用等)を一層展開していくことが必要であり、これまでの授業の在り方の転換を図ることを主たる課題・改善としていく。 ・学力向上に相関すると示されている非認知能力面の具体的対策を一層充実させ、自己効力感、学びに向かう姿勢等の向上を図り、学力向上を推進していく。 		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和4年度予算額	28,441千円	2. 令和3年度決算額	29,565千円
3. 令和4年度の 事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校1・2年生でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしイングリッシュ」を実施した。令和4年度は、年度当初から派遣会社より5名、市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和3年度】 白一小152(469) 白二小138(524) 越河小41(220) 大平小73(217) 大鷹沢小82(270) 白川小65(197) 福岡小49(213) 深谷小49(190) 小原小中76(244) 白石中196(367) 福岡中106(271) 東中206(799) 第二幼19(38) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園22(24) 合計1,274(4,043)		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和4年度】 白一小153(496) 白二小162(532) 越河小43(214) 大平小77(220) 大鷹沢小78(256) 白川小67(217) 福岡小54(204) 深谷小47(149) 小原小中83(269) 白石中203(433) 福岡中99(190) 東中208(705) 第二幼20(40) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園26(44) 合計1,320(3,969) ※学級数減・複式化の影響で、複数校で指導時数が減少したが、全体の配置日数は増加している。		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】 ALT6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、各校・園に対して実質的に令和3年度を上回る配置が可能となり、教育課程特例校として、ALTを授業や学校行事等で効果的に活用する機会を増やすことができた。また、幼稚園や保育園へのALT派遣も積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。このほか、ALT派遣会社の提案により、福岡中学校において海外の学校とのオンライン交流も行うなど、生きた英語を学ぶ機会の増加により異文化に対する理解を深めることにつながった。 「しろいしイングリッシュ」に対する保護者アンケートにおいても、関心を高めることにつながっているなど、肯定的な回答が高い結果であった。</p> <p>【課題】 既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、学校間の情報共有や、市教委・学校等・派遣会社との調整・連携を更に強化するなど、外国語・国際理解教育の充実改善に向けた検討を今後も計画的に進めていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	生徒指導関係事業	担当課	学校管理課
事業名	生徒指導関係事業		
重点施策 (白石市の教育より)	豊かな人間性を育む「心の教育」の推進、学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	関係機関との連携による相談・支援体制を充実させ、不登校やいじめ、問題行動などの未然防止、早期発見・解決を図る。		
1. 令和4年度予算額	20,422千円	2. 令和3年度決算額	17,428千円
3. 令和4年度の事業内容	白石市子どもの心のケアハウス、白石市青少年相談センター、仙南けやき教室、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)の運用と活用。学び支援教室の運営。いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止大会の開催。		
4. 事業の実績	<p>【令和3年度】</p> <p>ケアハウス: 支援児童生徒実人数134名(学校復帰児童生徒実数1名)、保護者支援総数128名 相談センター: 相談件数19件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数99件(376名) 仙南けやき教室: 通所者6名、相談件数109件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数31名、訪問活動回数381回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童107件、教員30件、保護者383件 相談件数 中学校生徒347件、教員7件、保護者131件 学び支援教室: 利用者数 白石二小19名、白石中28名</p>		
	<p>【令和4年度】</p> <p>ケアハウス: 支援児童生徒実人数195名(学校復帰児童生徒実数5名)、保護者支援総数241名 相談センター: 相談件数32件、街頭巡回指導(声がけ運動)件数50件(146名) 仙南けやき教室: 通所者6名、相談件数98件 スクールソーシャルワーカー: 支援児童生徒数30名、訪問活動回数213回 スクールカウンセラー: 相談件数 小学校児童177件、教員46件、保護者378件 相談件数 中学校生徒263件、教員13件、保護者162件 学び支援教室: 利用者数 白石二小4名、白石中19名</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>不登校児童生徒への支援の目的が学校復帰から社会的自立へとシフトする中、各機関への相談件数や支援者数は増加傾向にあり、問題を抱える児童生徒や保護者へ積極的に関わっていることの表れであると考え。令和2年度からSSWの活動拠点を子どもの心のケアハウスに置き、ケアハウスSVと連携を図りながら、学校や家庭の要請に柔軟に対応できるようになった。令和3年度から、県の「不登校等児童生徒学び支援教室拡充事業」に参加し、不登校児童生徒への支援を目的とした「学び支援教室」を白石第二小学校と白石中学校に設置し、社会的自立に向けた取組を行った。令和4年度には条例等を整備し、子どもの心のケアハウスを「白石市教育支援センター」として位置付け、学校や関係機関等とより強固な連携を図りながら児童生徒や保護者への支援を行った。「いじめ防止大会」はコロナ禍のためオンラインでの実施となったが、各学校の主体的・積極的な取り組みの情報交換ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>不登校児童生徒は毎年増加しており、市としても将来的に引きこもり等の大きな問題となることが危惧されている。学校や関係機関、民間団体とより強力な連携を図り、個々に応じた見立て(アセスメント)による支援を行うことができるよう、「教育支援センター」としての機能を有した心のケアハウスの支援体制の強化や不登校特例校の新設等、関係する施設の</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和4年度予算額	5,013千円	2. 令和3年度決算額	3,866千円
3. 令和4年度の事業内容	家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。 ○家庭教育支援 ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催 ○学校教育支援 ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 ○地域活動支援 ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 ○放課後子ども教室 ・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営		
4. 事業の実績	・ボランティア派遣学校数: 小学校及び中学校計13校(13校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園1園) ・年間活動日数: 第一小208日(213日)、第二小233日(221日)、越河小44日(39日)、大平小14日(12日)、大鷹沢小216日(216日)、白川小21日(5日)、福岡小241日(243日)、深谷小32日(30日)、小原小51日(47日)、白石中74日(29日)、福岡中42日(38日)、小原中21日(13日)、東中3日(19日)、第二幼稚園9日(8日) ・家庭教育学習講座の実施数: 5校(1校) ※()の数値は昨年度		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。これまでの実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただき、放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。 【課題】 全国的な傾向ではあるが、少子化が進み、学校の統廃合により特色ある教育活動・伝統文化の継承が困難となり、地域コミュニティの衰退も懸念される現状である。今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和4年度予算額	16,249千円	2. 令和3年度決算額	17,792千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、遺跡が所在していることを分かりやすくするために新たに標柱を設置したほか、風雨にさらされ文字の判読が難しくなった説明板・標柱を塗り替え、更新した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。そのほか、大平にある古墳の測量調査等を実施した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(令和4年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え2件、発掘調査22件 (令和3年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え10件、発掘調査20件</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 史跡環境整備事業においては、標柱新設・説明板更新により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。</p> <p>特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p>【課題】 市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業は、令和4年度以降にスマートICや道の駅など大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活気に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	6,180千円	2. 令和3年度決算額	1,147千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、いきいきEnjoy教室を開催し、ニュースポーツを通じて体を動かす楽しさを見つけるとともに会員相互の親睦交流を図った。また、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民綱引き大会を始めとした各種スポーツ大会を開催した。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (R4実績)計15回開催(うち小学校10回、地区公民館等5回)、参加者(延べ)608名</p> <p>○いきいきEnjoy教室 (R4実績)計22回開催 参加者(延べ)770名</p> <p>○各種スポーツ大会の開催 白石市ふるさとスポーツ祭、しろいし蔵王高原マラソン大会、市民体育大会、市民グラウンドゴルフ大会、市民・小学生シャフルボード大会、市民綱引き大会</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらう良い機会となった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことができるスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】 少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続き地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	社会教育推進体制の充実 2-(1)-①		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和4年度予算額	千円	2. 令和3年度決算額	千円
3. 令和4年度の 事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ●利用回数: (R3)1,562回 (R4)1,799回 ●利用人数: (R3)20,649人(うち 主催事業 372人、社会教育関係団体 11,800人、その他 8,477人) (R4)27,326人(うち 主催事業 444人、社会教育関係団体 15,931人、その他 10,951人) 		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用定員の抑制措置などを継続したものの、利用回数は対前年度比237回増(+15.2%)、利用人数は対前年度比6,677人増(+32.3%)となり、感染防止対策を徹底しながら、市民への学習機会や学習情報の提供に努めた。</p> <p>【課題】 引き続き生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、自主的な学びへの支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業(基本方針)	学校教育の充実	担当課	学校給食センター															
事業名	学校給食運営事業																	
重点施策 (白石市の教育より)	1-(5)学校給食の充実と食育の推進																	
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。																	
1. 令和4年度予算額	271,245千円	2. 令和3年度決算額	268,114千円															
3. 令和4年度の事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。 ・学校給食残食調査を実施する。 ・実証実験に伴い夏季秋季冬季休業日の一部が登校日となり給食提供を実施する。 																	
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。 ・児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査(11/14～11/18)を実施した。 ・「令和の時代の新たな学校の在り方を探るための実証実験」で夏季冬季休業日の一部を授業日に振り替え登校日となったため給食提供を実施した。 																	
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担当が給食時に説明をしている。「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し子どもたちがいつでも見られるようにしている。 ・アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故は無かった。 <p>児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>1,251名</td> <td>254,073食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>801名</td> <td>147,080食</td> </tr> <tr> <td>幼稚園:</td> <td>40名</td> <td>450食</td> </tr> </table> <p>うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>6名</td> <td>1,098食</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>3名</td> <td>288食</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・残食調査による残食率〔市内平均〕 ※()内は令和3年度の数値 <p>小学校: 主食8.6%、主菜16.0%、副菜26.5%、食缶(汁物)11.2%、牛乳0.7% (8.1%、 16.9%、 25.1%、 13.5%、 0.9%)</p> <p>中学校: 主食13.7%、主菜10.3%、副菜24.4%、食缶(汁物)14.9%、牛乳4.4% (12.3%、 12.9%、 23.8%、 13.3%、 5.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験実施校 <p>小学校(7校実施): 夏季4日(小原小:夏季7日、冬季1日) ※大鷹沢小、白川小は除く 中学校(4校実施): 夏季8日(福岡中、小原中は7日)、秋季2日、冬季1日</p> <p>【課題】</p> <p>児童生徒が苦手意識を持つ献立についても食材の調理方法や味付け、また、組み合わせる食材を工夫し食べる機会を作ることで、成長に必要な栄養素の適切な摂取量を充足させていくことが肝要なことであると感じています。学校全体での指導や取り組みのみならず、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。</p>			小学校:	1,251名	254,073食	中学校:	801名	147,080食	幼稚園:	40名	450食	小学校:	6名	1,098食	中学校:	3名	288食
小学校:	1,251名	254,073食																
中学校:	801名	147,080食																
幼稚園:	40名	450食																
小学校:	6名	1,098食																
中学校:	3名	288食																
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した															
		B	目標をほぼ達成した															
		C	目標をやや下回った															
		D	目標を下回った															
7. 外部評価																		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-②)・図書館の充実(3-(2)-①,②,③,④)		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まで、すべての市民の生涯学習の場として資料や情報を収集、提供し「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和4年度予算額	31,821千円	2. 令和3年度決算額	30,358千円
3. 令和4年度の事業内容	(1) 各分野の資料を収集、提供するとともに、利用者の視点に立った書架の整備を進めることで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。 (3) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働による図書館環境の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が49,345冊(-4,849冊)、児童書が44,315冊(-2,105冊)、視聴覚資料及び雑誌が6,879冊(-139冊)、合計100,539冊(-7,048冊)であり、貸出人数は22,835人(-1,371人)であった。 (2) インターネット予約サービスの利用者は、予約数908件(-41件)であった。 (3) 電子図書館の利用者は、アクセス数3,201回(-227回)、延べ貸出冊数2,655冊(-64冊)であった。 (4) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、5,287冊(+88冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所に6,350冊(-23冊)の図書を配本した。 (5) 書架整理8人(+1人)、読み聞かせ14人(-3人)、図書館支援6人(+1人)のボランティアが登録し、延べ189回(+16回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・課題等	【成果】 年間を通して各分野から2,806冊(+193冊)の資料を収集し、さらなる蔵書資料の充実に務めた。また、インターネット技術を活用した電子図書館や予約サービスも一定程度定着し、特に電子図書館については小学校における朝読書の時間での活用など、子どもの読書時間の増加に繋げることができた。 【課題】 コロナ禍がある程度落ち着き、感染拡大予防対策の在宅時における図書館需要が落ち着いたためか、前年度に比べ貸出関係の各数値は減少することとなった。今後、図書館利用の拡大に向けて「としょかんだより」やホームページを始めとしたデジタル技術を用いた利用促進のための広報の充実を図るとともに、コロナ禍で得た教訓を生かしながら学校、関係各所属及び図書館ボランティアとの連携をより強化して、子どもの読書活動や生涯学習活動を促進し、加えてレファレンス機能を始めとした図書館機能の充実を図ることで、より市民が利用しやすい図書館づくりに努めていく必要がある。		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-①)・図書館の充実(3-(2)-②,⑦)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに得られる文化意識の基礎の充実を図る。		
1. 令和4年度予算額	— 千円	2. 令和3年度決算額	— 千円
3. 令和4年度の事業内容	<p>(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけづくりを支援した。</p> <p>(2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居の読み聞かせ等を行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(3) えほんであそぼう アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により、絵本の読み聞かせとテーマに沿った折り紙を折るイベントを開催した。また、大人向けにワークショップ形式の読み聞かせの会を設け、幅広い年代に向けて読書活動を推進した。</p> <p>(4) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園及び学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) 6か月児ブックスタート(6か月育児相談日に実施) 新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、担当課と協議の上、中止とした。</p> <p>(2) おはなしひろば 開催回数:13回 参加人数:大人 25人 子ども 95人 ボランティア 24人 (-8回) (-7人) (-22人) (-10人)</p> <p>(3) えほんであそぼう 開催回数:7回 参加人数:大人 27人 子ども 26人 ボランティア 7人 (+2回) (+13人) (+8人) (+2人)</p> <p>(4) 出前読み聞かせ 開催回数:50回 参加人数:大人 146人 子ども 1,150人 ボランティア 89人 (+2回) (-11人) (-110人) (+11人)</p> <p>※(4)は数回の中止のみで前年より多く開催することができた。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 6ヶ月育児相談時の読み聞かせができない中、「えほんであそぼう」のイベントで赤ちゃん向けの読み聞かせを2回開催した。また、読み聞かせボランティアの積極的な活動により、保育園・幼稚園・小学校など出前読み聞かせ先の読書推進に対する理解と協力連携を得ることができ、幼児・児童が普段の生活の中で図書と触れる機会を提供し、子ども読書活動を推進することができた。</p> <p>【課題】 「おはなしひろば」については、開催日が保育園や小学校の行事と重なってしまったことから季節行事と重複しないような日程調整が必要であるとともに、対象者である乳幼児及び保護者が、より興味・関心を持ってもらえるような開催内容とするよう、検討が必要である。 また、読み聞かせボランティアの登録者が減少し、高齢化も進んでいることから、新たなボランティアの獲得と育成を行う取り組みを実施する必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価			

第29号議案

令和5年度白石市各種功労者表彰候補者の内申について(案)

秘密会のため非公開

令和5年7月4日 提出

白石市教育委員会 教育長 半沢 芳典